

令和5年度 第1回神戸市就学・教育支援委員会 次第

令和5年6月1日（木）15:00～
神戸市総合教育センター701号室

1. 開会

2. 議事内容

- (1) 障害のある児童生徒の学びの充実について

- (2) 特別支援教育相談センター状況報告

- (3) 校内支援委員会「判断報告書」の検討について

- (4) その他

3. 事務連絡

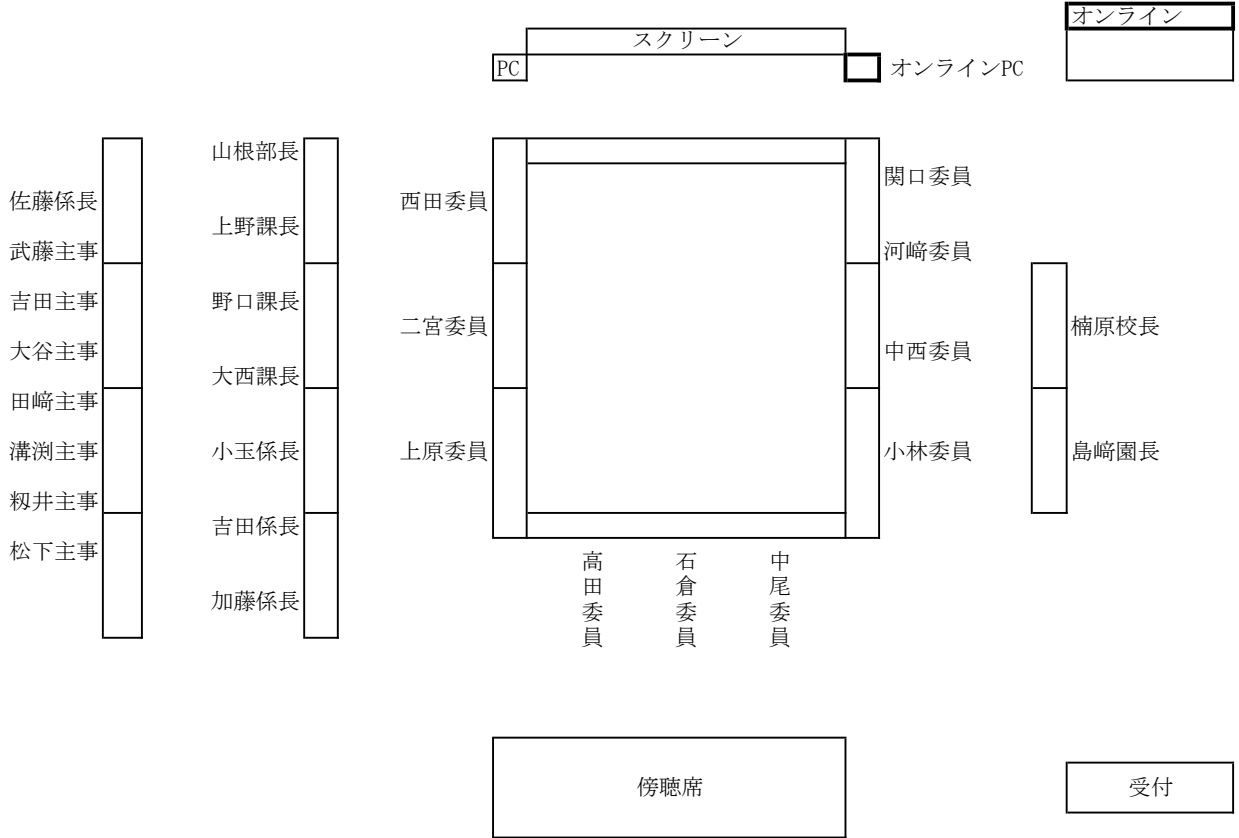
<配布資料>

- 資料1 児童生徒数等各種状況報告
資料2 自校通級設置と拠点校通級指導教室のあり方について
資料3 特別支援教育相談センター状況報告

参考資料 ・ 神戸市就学・教育支援委員会開催要綱

令和5年度 第1回神戸市就学・教育支援委員会 座席表

KEC701号室



令和5年度 神戸市就学・教育支援委員会 委員等一覧

	名前	所属等	専門等
委員	石倉 健二	兵庫教育大学大学院 学校教育研究科教授	発達心理
	中尾 繁樹	関西国際大学 教育学部学部長	教育心理
	小林 大介	兵庫県立こども病院 整形外科部長	整形外科
	上原 奈津美	神戸大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科助教	耳鼻咽喉科
	高田 哲	こども家庭局 総合療育センター 部長(診療担当)	小児科
	中西 裕子	神戸大学医学部附属病院 眼科准教授	眼科
	河崎 洋子	神戸医療福祉センターにこにこハウス施設長	小児神経科
	関口 典子	兵庫県立こども病院 精神神経科部長	児童精神科
	西田 和子	学校法人誠昭学園 キックオフ チャイルド・ケアセンター 児童発達支援管理責任者	言語聴覚士
	二宮 啓子	神戸市看護大学 教授	小児看護学
オブザーバー	大前 稔	魚崎中学校長(中学校教育実践研修特別支援教育グループ)	
	山田 義明	高羽小学校長(小学校教育実践研修特別支援教育グループ)	
	楠原 薫	青陽灘高等支援学校長(特別支援学校校長会)	
	島崎 昭枝	からと幼稚園長(幼稚園教育実践研修特別支援教育グループ)	
事務局	山根 拓生	教育委員会事務局 学校教育部長	
	上野 昌稔	教育委員会事務局 特別支援教育課長	
	野口 千晶	教育委員会事務局 課長(特別支援教育推進担当)	
	大西 道代	教育委員会事務局 課長(特別支援教育相談センター担当)	
	小玉 誠	教育委員会事務局 特別支援教育課 管理係長	
	吉田 泰宏	教育委員会事務局 特別支援教育課 推進係長	
	佐藤 亘	教育委員会事務局 特別支援教育課 係長	中央区担当
	加藤 剛志	教育委員会事務局 特別支援教育課 係長	特別支援教育相談センター
	靱井 雄太	教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事	視覚障害、東灘区・灘区担当
	吉田 真由美	教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事	LD・ADHD、兵庫区担当
	大谷 芳樹	教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事	知的障害、北区担当
	溝渕 宗章	教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事	自閉症・情緒障害、須磨区担当
	田崎 裕介	教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事	肢体不自由、長田区担当、学校園医療的ケア
	武藤 愛	教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事	言語・聴覚障害、難聴教育、垂水区担当
松下 岳人	教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事	病弱・身体虚弱、西区担当	

令和4年度 就学支援の状況

資料1

<小・中学校 校内支援委員会 検討件数>

	小学校	中学校	合計
校内就学支援委員会 (数)	163	85	249
開催回数	1,420	327	1,747
検討件数	3,582	906	4,488

<就学猶予・免除に関する検討>

年齢 6歳～11歳 0名

年齢 12歳～14歳 0名

令和5年度 神戸市就学・教育支援委員会 活動計画

月	事 項
6	・第1回神戸市就学・教育支援委員会（6月上旬）
9	・第2回神戸市就学・教育支援委員会（9月下旬）
12	・第3回神戸市就学・教育支援委員会（12月中旬）
2	・第4回神戸市就学・教育支援委員会（2月中旬）

<その他>

- ・就学相談（相談センターの利用）について（校園長・教頭研修）
- ・「令和6年度特別支援学級、学級編制協議資料」についての説明（校園長・教頭研修）
- ・校内支援委員会 活動状況調査（小学校、中学校）

令和5年度 特別支援学級設置状況と児童生徒数

(1) 特別支援学級 令和4年度と令和5年度との対比

学級種別	年度	小学校		中学校		計	
		学級数	在籍数	学級数	在籍数	学級数	在籍数
知的障害	R4	193	878	83	303	276	1181
	R5	197	953	80	284	277	1237
病弱・虚弱	R4	8	8	3	5	11	13
	R5	6	7	3	3	9	10
難聴	R4	1	7	1	6	2	13
	R5	2	9	1	4	3	13
自閉症 情緒障害	R4	192	843	81	251	273	1094
	R5	194	878	83	261	277	1139
肢体不自由	R4	55	74	12	14	67	88
	R5	57	75	8	8	65	83
合計	R4	449	1,810	180	579	629	2,389
	R5	456	1,922	175	560	631	2,482

(2) 特別支援学級の児童生徒数及び学級数の年度別推移

年度	小学校		中学校		計		1クラス当たりの 平均在籍者数
	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	
14	227	585	98	255	325	840	2.58
15	231	616	106	284	337	900	2.67
16	244	640	99	273	343	913	2.66
17	243	659	106	288	349	947	2.71
18	248	678	105	286	353	964	2.73
19	253	712	108	300	361	1012	2.80
20	262	771	109	334	371	1105	2.98
21	271	817	105	328	376	1,145	3.05
22	279	883	107	317	386	1,200	3.11
23	293	925	110	338	403	1,263	3.13
24	317	1006	112	335	429	1,341	3.13
25	323	1037	118	383	441	1,420	3.22
26	330	1,076	136	420	466	1,496	3.21
27	349	1,168	142	460	491	1,628	3.32
28	366	1,268	148	455	514	1,723	3.35
29	384	1,391	147	461	531	1,852	3.49
30	400	1,470	153	479	553	1,949	3.52
R元	400	1,536	164	517	564	2,053	3.64
R2	420	1,622	178	555	598	2,177	3.64
R3	431	1,705	181	560	612	2,265	3.70
R4	449	1,810	180	579	629	2,389	3.80
R5	456	1,922	175	560	631	2,482	3.93

特別支援学校の幼児・児童生徒数の推移

(単位:人) (令和5年5月1日現在)

年度		26	27	28		29	30	R元	R2		R3	R4	R5		
盲	幼	1	3	2		2	1	2	2		1	0	1		
	小	5	5	4		3	6	5	4		5	6	6		
	中	7	6	5		6	6	5	5		3	2	3		
	高本科	14	12	10		7	6	5	7		7	8	6		
	高専科	12	11	15		20	21	15	8		6	6	11		
	計	39	37	36		38	40	32	26		22	22	27		
女生	(本校体)	幼	0	0	0		0	0	0	0		0	0	0	
		小	24	34	36		41	43	41	46		23	21	17	
		中	25	24	21		16	21	20	21		11	9	11	
		高	18	19	26		30	31	27	20		14	13	11	
		小計	67	77	83		87	95	88	87		48	43	39	
	(分校区)	小	6	5	1		—	—	—	—		灘さくらへ 統合			
		中	1	2	5		6	5	1	—					
		高	5	3	1		1	2	5	6					
		小計	12	10	7		7	7	6	6					
	知的	小	14	19	23		31	35	39	40		36	47	45	
		中	27	37	44		55	44	36	44		54	54	50	
		高	34	54	65		71	82	88	85		73	68	69	
		小計	75	110	132		157	161	163	169		163	169	164	
	訪問含 病弱	小	10	21	11		17	14	19	18		14	13	8	
中		5	5	6		3	6	8	6		13	9	5		
高		2	2	1		0	1	1	0		0	0	1		
	小計	17	28	18		20	21	28	24		27	22	14		
	計	171	225	240		271	284	285	286		238	234	217		
垂水(肢体不自由)	本校	幼	0	0	0	いぶき 明生	幼	0	0	0	0	0	0	0	
		小	40	34	22		小	20	22	24	28	25	24	21	
		中	32	32	34		中	30	23	17	18	24	23	19	
		高	21	25	27		中	34	34	42	41	32	21	19	
		小計	93	91	83		小計	84	79	83	87	81	68	59	
	訪問	小	4	4	3		小	4	4	3	5	4	2	2	
		中	7	5	6		中	5	6	4	4	2	3	4	
		高	5	4	5		中	7	7	10	10	10	5	2	
		小計	16	13	14		小計	16	17	17	19	16	10	8	
		計	109	104	97										
青陽西 (知的障害)	小	26	26	31		小	35	45	54	63	70	78	87		
	中	45	49	48		中	52	66	69	75	77	84	102		
	高	67	69	80		高	89	109	117	114	114	123	137		
	小計	138	144	159		小計	176	220	240	252	261	285	326		
	計	276	316	340		計	276	316	340	358	358	363	393		
青陽東 (知的障害)	小	35	32	28		小	25	20	21	29	灘さくら 知的	小	18	25	25
	中	54	60	58		中	57	52	59	52		中	13	18	20
	高	125	129	131		高	112	107	114	114		高	13	14	19
	小計	214	221	217		小計	194	179	194	195		小計	44	57	64
		計	214	221	217		計	194	179	194		195	計	132	143
											青陽灘高等	109	115	114	
青陽須磨	肢体	小	11	13	16		小	15	13	18	18	18	14	13	
		中	10	10	9		中	11	13	14	9	5	7	11	
		高	7	7	9		高	12	9	6	8	11	12	8	
		小計	28	30	34		小計	38	35	38	35	34	33	32	
	知的	小	57	50	54		小	58	60	57	64	66	77	80	
		中	65	76	83		中	80	63	57	67	82	85	100	
		高	138	134	135		高	136	137	127	128	117	110	111	
	小計	260	260	272		小計	274	260	241	259	265	272	291		
	計	288	290	306		計	312	295	279	294	299	305	323		
	全体計	959	1021	1055		全体計	1091	1114	1130	1159	1158	1182	1252		

通級指導 幼児児童生徒数

R5.5.1現在

拠点校通級教室

	教室名	幼	小	中
そだちとことこの教室	本山南	8	49	
	神戸生田	24	34	33
	小 部	7	26	17
	竜が台	10	30	23
	垂 水	22	30	
	竹の台	11	37	13
	合 計	82	206	
きこえとことばの教室	稗 田	23	53	
	湊川多聞	33	38	17
	谷 上	18	32	17
	道 場	16	17	
	板 宿	18	26	
	西落合	21	47	
	西 脇	29	52	
	枝 吉	22	25	
	合 計	180	290	
拠点 幼・小・中 合計	262	496	120	

自校通級教室（小学校）

	学校名	児童数		学校名	児童数
1	福池	14	23	西須磨	9
2	魚崎	17	24	北須磨	13
3	本山第二	12	25	妙法寺	15
4	住吉	13	26	花谷	6
5	渦が森	16	27	下畑台	14
6	御影北	14	28	千鳥が丘	15
7	成徳	15	29	霞ヶ丘	13
8	高羽	19	30	東舞子	16
9	福住	13	31	小束山	15
10	上筒井	22	32	有瀬	14
11	湊	16	33	井吹東	18
12	港島学園前期	17	34	井吹の丘	16
13	夢野の丘	17	35	伊川谷	16
14	兵庫大開	16	36	高津橋	26
15	藤原台	12		自校(小)合計	542
16	桜の宮	14		自校通級教室（中学校）	
17	ひよどり台	15		学校名	生徒数
18	長尾	21	1	魚崎	8
19	鹿の子台	14	2	本山	13
20	蓮池	17	3	鈴蘭台	16
21	駒ヶ林	17	4	多聞東	13
22	だいち	5		自校(中)合計	50

通級利用者数（拠点＋自校）

	幼	小	中
小計	262	1038	170
小中合計		1208	
総合計		1470	

通級指導教室設置状況（R2～）

（令和5年5月1日現在）

年度		種別								合計	
		きこえとことばの教室 （難聴・言語・発達）		そだちとことこの教室 （情緒・発達）		中学校通級指導教室 （情緒・発達）	(小)自校通級指導教室 （情緒・発達） ※令和2年度より設置		(中)自校通級指導教室 （情緒・発達） ※令和4年度より設置		
		幼児数	児童数	幼児数	児童数	生徒数	設置校数	児童数	設置校数		生徒数
2		154	320	87	212	111	5	50	0	0	934
3		166	326	59	221	108	15	184	0	0	1064
4		166	319	59	209	129	24	356	1	14	1252
5		180	290	82	206	120	36	542	4	50	1470

自校通級設置と拠点通級指導教室の在り方 について

神戸市就学・教育支援委員会

令和4年12月（文部科学省）公表資料より

「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」



文部科学省

- ・質問項目に対して学級担任等が回答した内容から、「知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた児童生徒の困難の状況。
- ・質問項目に対して学級担任等が回答した内容から、「学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた児童生徒数の割合

<小学校・中学校>

- ・学習面又は行動面で著しい困難を示す 8.8%
- ・学習面で著しい困難を示す 6.5%
- ・行動面で著しい困難を示す 4.7%
- ・学習面と行動面ともに著しい困難を示す 2.3%

※「学習面で著しい困難を示す」とは、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」の一つあるいは複数で著しい困難を示す場合を指し、一方、「行動面で著しい困難を示す」とは、「不注意」「多動性」「衝動性」あるいは「対人関係やこだわり等」について一つか複数で問題を著しく示す場合を指す。

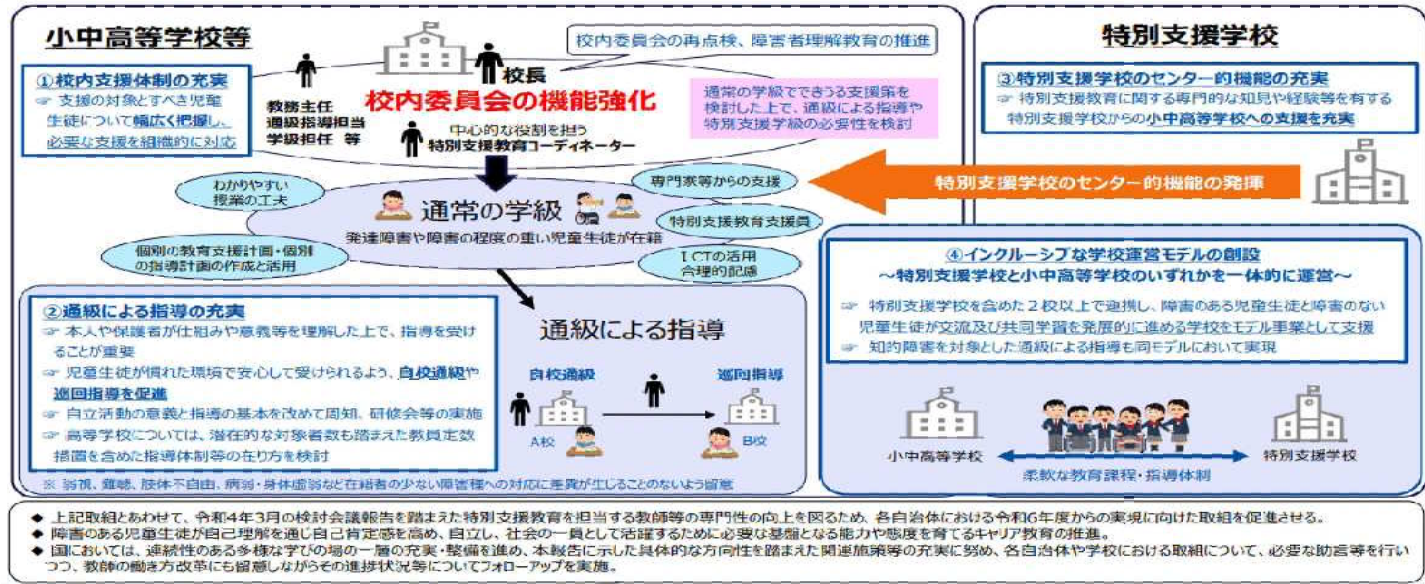
通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告(概要)

(令和5年3月13日)

別添2

現状・課題

- ① 学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒：小中学校8.8% 高等学校2.2% → 全ての学級に特別な教育的支援が必要な児童生徒が在籍している可能性
うち、校内委員会で支援が必要と判断：小中学校28.7% 高等学校20.3% → 校内委員会の機能が十分に発揮されていない
- ② 他校通級は、小学校では約3割、中学校では約2割 → 児童生徒や保護者の送迎等の負担
高等学校において、通級による指導が必要と判断された生徒が受けられていない実態がある → 実施体制が不十分
- ③ 障害の程度の高い児童生徒が通常の学級に在籍（就学先決定にあたり本人・保護者の意見を最大限尊重） → より専門的な支援が必要
- ④ 令和4年9月9日障害者権利委員会の勧告 → 障害のある子供と障害のない子供が可能な限り同じ場で共に学ぶための環境整備の推進が必要



通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告 1 R5.3.13

(通級による指導の意義・課題等)

○本人や保護者が通級による指導の仕組みや意義等を理解し、納得した上で指導を受け、通級による指導を活用して良かったという成果を出すことが重要である。あわせて、**当該児童生徒が、通級による指導で学んだことについて、在籍学級、学校での学習や生活の向上につながっていることを実感し、将来の生活につながっていくことを理解することは、通級による指導を主体的に受けることにつながる大切な視点である。**

通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告 3 R5.3.13

(通級による指導の実施形態等)

○通級による指導の実施形態については、他校通級に伴う保護者の送迎等の負担を軽減することや、児童生徒が在籍校の慣れた環境で安心して指導を受けられるようにするため、**自校通級**や**巡回相談を一層促進させる必要がある**。ただし、**障害の特性による指導効果や本人・保護者の意向等により他校通級が望まれる場合もあることから、それぞれの実情に応じた柔軟な対応が求められることに留意する必要がある**。

障害のある児童生徒の学ぶ場について

特別支援学校（視覚障害 病弱・身体虚弱 聴覚障害 肢体不自由）

	H24	R5	比率
神戸市	869人	1252人	↑ 約1.4倍

小学校・中学校
・特別支援学級
(知的障害 病弱・身体虚弱 聴覚障害 肢体不自由 自閉症・情緒障害)

	H24	R5	比率
神戸市	1341人	2482人	↑ 約1.9倍

・通常の学級 通級による指導
(視覚障害 病弱・身体虚弱 聴覚障害 肢体不自由 言語障害 自閉症・情緒障害 学習障害 (LD) 注意欠陥多動性障害 (ADHD))

	H26	R5	比率
神戸市	437人	1208人	↑ 約2.8倍

神戸市の通級指導教室

自校通級指導教室

(小・中)

全市で40校に(R5)

R2年 小5校
R3年 小10校
R4年 小9校、中1校
R5年 小12校、中3校
※児童生徒が在籍する学校に
設置された教室に通う

R8年には
小中学校の100校程度に
自校通級指導教室を設置

拠点校通級指導教室 (幼・小・中)

- ・きこえとことばの教室 (8教室)
- ・そだちとこころの教室 (6教室)

※幼児、児童、生徒が所属校園から
通級指導校(教室)に通い、指導を
受ける。

市立高等学校

※巡回方式

- ・通級指導担当者が生徒の
在籍校に巡回。
- ・在籍校(自校)にて指導
を受ける。

自立活動

障害による学習上・生活上の
困難さを改善・克服する指導

健康の保持

自立活動の6区分

心理的な安定

人間関係の形成

環境の把握

身体の動き

コミュニケーション

【心身の調和的発達】

→「手引き」
p.24-25

障害によって生じる、学習上・生活上の
様々なつまずきや困難さについて指導を行うことで、
児童生徒の「心身の調和的発達」を目指します。

例：小3男子児童

何回書いても漢字が覚えられない...

字を書くのは大嫌い

【通級指導教室】

漢字をパーツの足し算で覚えられるよう、手本を色分けしました。

担任と相談し「覚えること」をに焦点化しました。「唱えながら指書き」し、覚えたら、鉛筆で3回だけ書くことを児童と決めました。

協働

【通常の学級等】

通級から帰ってきたら、「今日はどの漢字を覚えたの？」と尋ね、唱える様子を確認しています。

学級でも、新出漢字の指導でパーツを色分けして示し、構成を問うようにしました。他の児童にも効果的です。

例：中2女子生徒

自分勝手なの？
私は悪くないのに...



【通級指導教室】

担任や部活の顧問とエピソードを共有し、トラブルについて生徒自身の話をよく聞いています。

トラブル時の状況を紙に書き出して、自分と相手の認識のズレを整理しています。相手が自分と同じ感じ方ではないことに、気づき始めています。

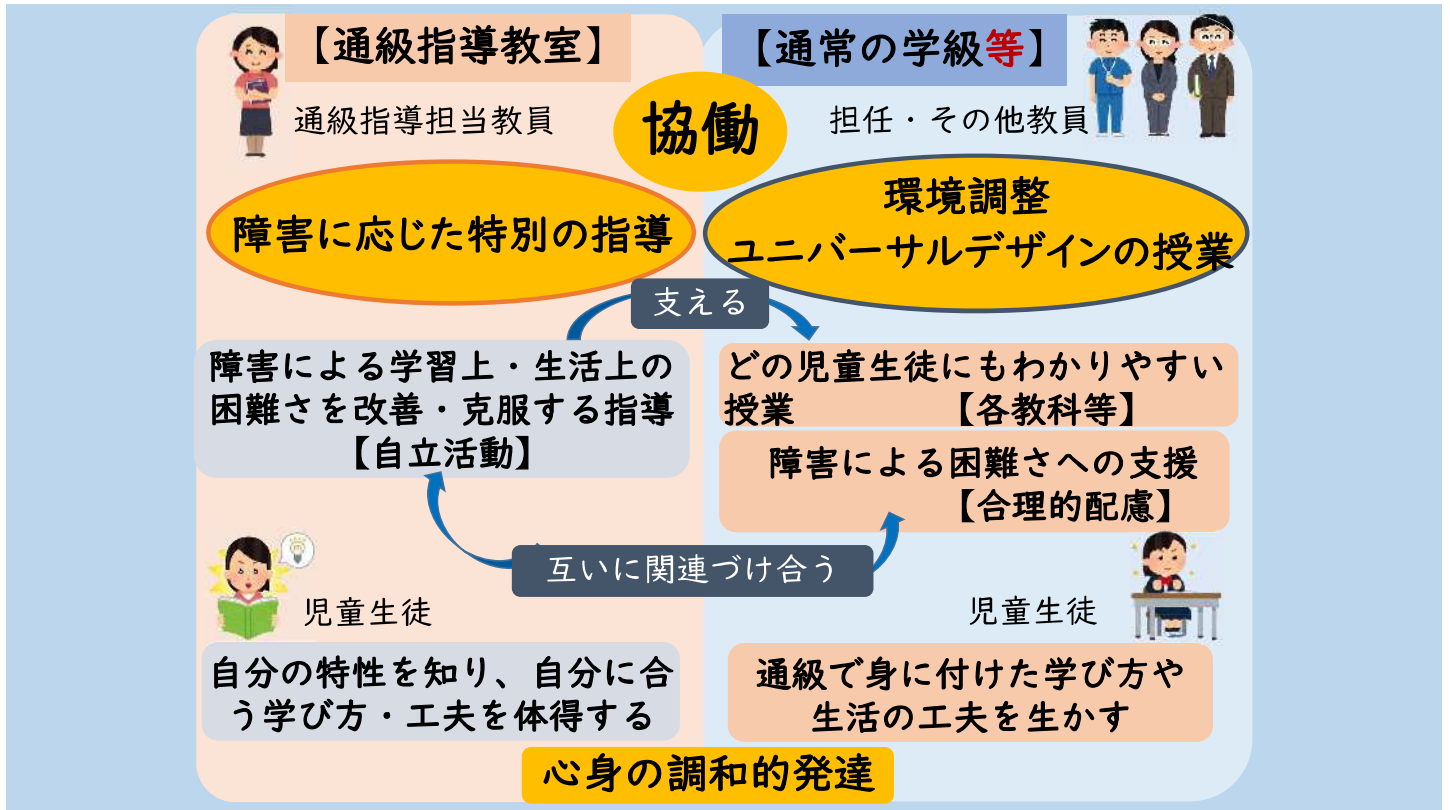
協働

【通常の学級等】

相談するタイミングがわからないようなので、HRの後に「〇〇はどうなった？」と声をかけています。

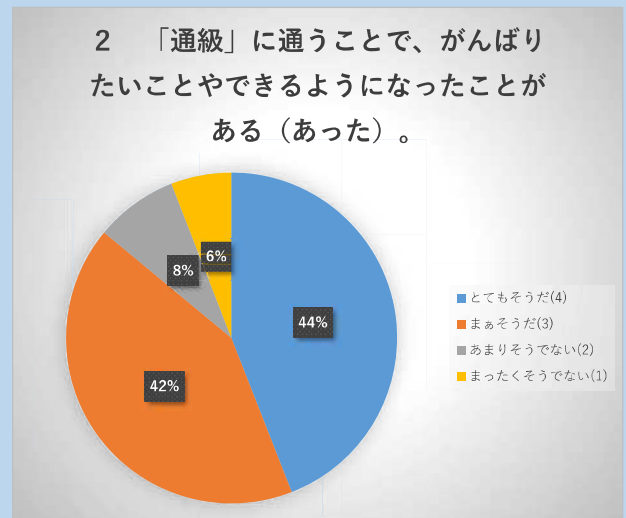
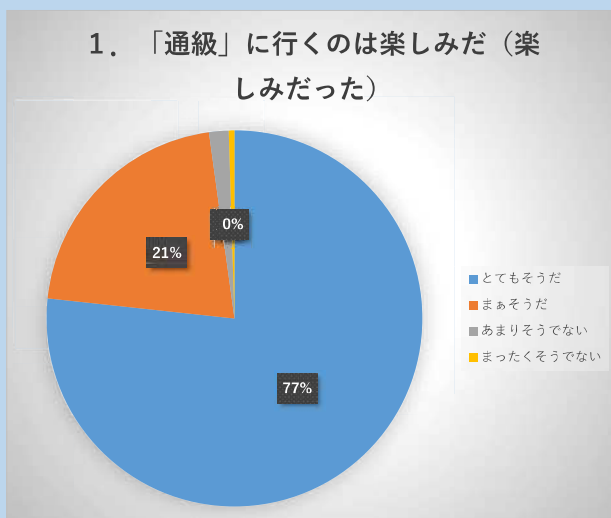
教員間でよく声をかけあって共有しています。

役割の具体的な内容や都合の悪い時の対処方法を本人と決めました。



令和4年度自校通級アンケート結果（R5.2）

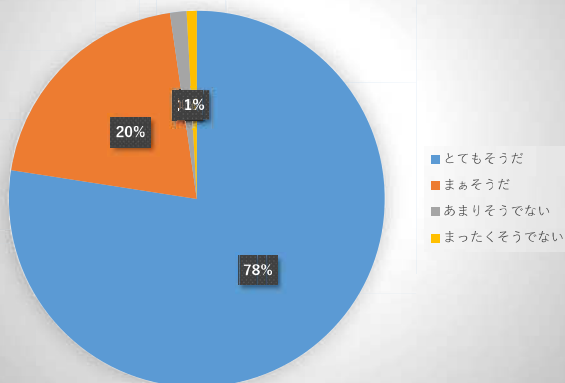
児童生徒 412名



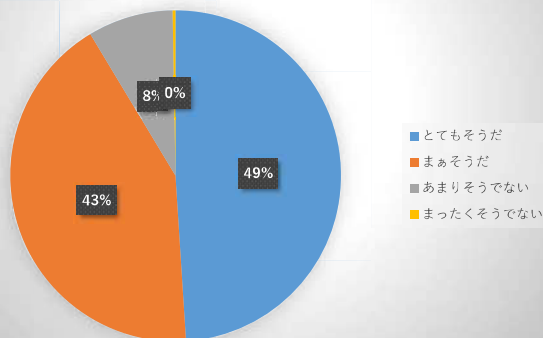
令和4年度自校通級アンケート結果 (R5.2)

保護者 350名

1. お子様は「通級」にすすんで（楽しんで）通っている（通っていた）。



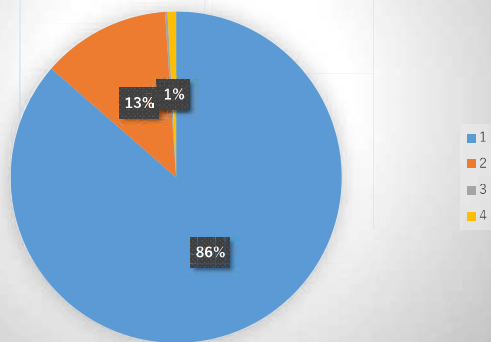
2. お子様「通級」に通うようになり、学校や家庭での様子に良い変化があった。



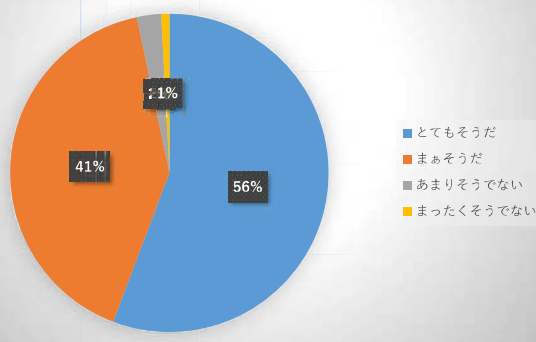
令和4年度自校通級アンケート結果 (R5.2)

教職員 367名

1. 児童生徒は「通級」にすすんで（楽しんで）通っている（通っていた）。



2. 児童生徒が「通級」に通うようになり、学級での様子に良い変化があった。

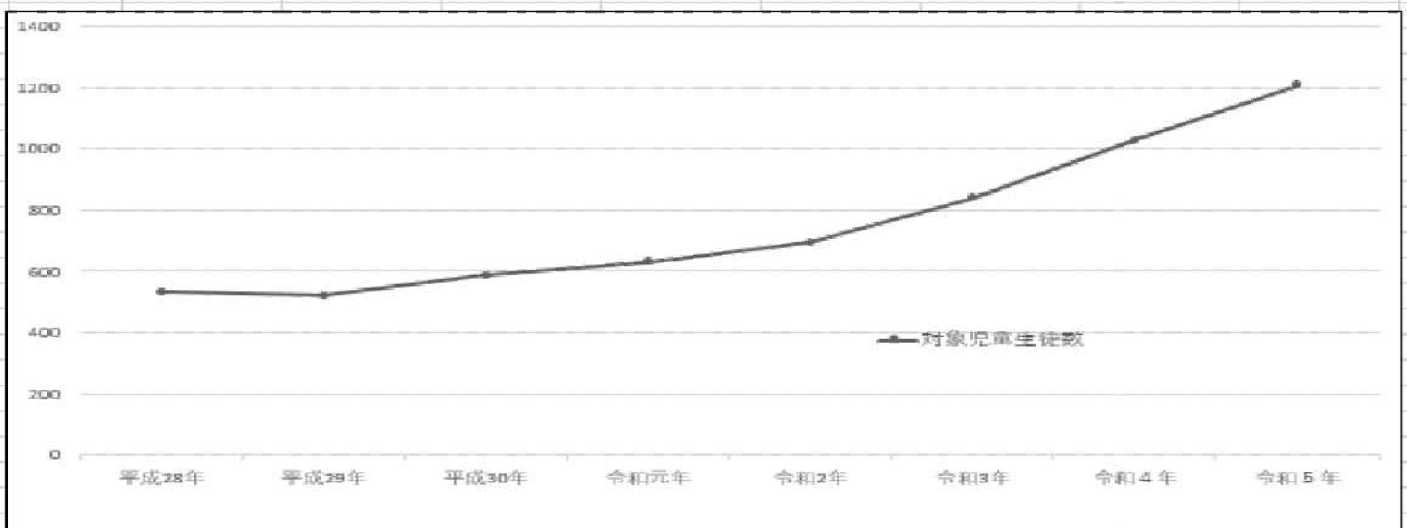


区	東灘・灘	北・北神	中央 兵庫	長田 須磨	垂水	西		
拠点校	本山南 稗田	小部 谷上 道場	湊川多聞 神戸生田	板宿 西落合 竜が台	西脇 垂水	枝吉 竹の台		
自校	R2 小	魚崎	長尾	湊	霞ヶ丘	伊川谷		
	R3 小	福池 成徳	藤原台 ひよどり 台	上筒井 兵庫大開	蓮池 北須磨	下畑台	井吹東	
	R4	小	御影北 渦が森 高羽	鹿の子台	港島学園 (前期) 夢野の丘	駒ヶ林	千鳥が丘	高津橋
		中		鈴蘭台				
	R5	小	本山第二 住吉 福住	桜の宮		だいち 西須磨 妙法寺 花谷	東舞子 小東山	有瀬 井吹の丘
		中	魚崎 本山				多聞東	

※赤字は拠点校教室に中学校担当者が在籍

神戸市通級児童生徒数の推移（小中学校）

（各年5月1日現在）



年度	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
対象児童生徒数	534	520	585	630	693	839	1007	1009
特別支援学級児童数	14	14	14	14	14	14	14	14
特別支援学級外児童数	35	37	38	45	49	57	67	82

神戸市の通級指導設置の課題

- 国の方針（通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告R5.3.13）
「通級指導を受けたい場合に確実に受けることができるよう、場の確保等の量的拡大も急務である。」
↓
- ① 神戸市では自校に13名以上の通級対象児童生徒がいる場合にその校1校に通級指導教室を設置してきた。
- ② そのため、自校に通級による指導が必要な児童生徒が13名以下の場合には教室設置がされないままであった。

課題への対応について①

- A小学校（通級による指導対象児童5名）、近隣のB小学校（通級による指導対象児童8名）の場合、兼務発令を出して教員1名が2校の自校通級指導を行うことができるようにする。
- 通級による指導対象児童生徒が1～2名の場合は、拠点校通級指導担当教員が巡回指導を行うことも実施可能な場合は、試行実施していく。



早期に小中規模校に在籍している通級が必要な児童生徒への対応が可能になる。

今後の方向性について

(視点) 小学校低学年の時期に子供を伸ばしていきたい。

- ① 学習障害
- ② 難聴児への対応
- ③ 集団生活の基礎

(課題)

- ① きこえとことばの教室の活用のあり方
- ② 学習障害のある児童への対応
- ③ 自校通級担当教員の専門性向上

校内支援委員会 質の向上

「なんか気になる子」 = 「発達障害の子」ではない

(1)的確な実態把握・・・「支援検討シート」の活用

- ①クラス・学年の中での具体的な配慮で対応可能
- ②通常の学級ではあるが、通級指導(自校・拠点)が必要
- ③特別支援学級での特別な教育課程が必要
- ④特別支援学校が相応

必要に応じて
特別支援教育相談
センターの活用

①か②か、校内で検討できる力がポイントに

(2)具体的な指導支援と見通し・評価・改善

ご意見をいただきたい項目

- ① 自校通級の兼務発令による小中規模校への配置に関して
- ② 拠点校通級指導担当教員による巡回指導のあり方について
(難聴等、特に専門性を必要とする場合など)
- ③ 通級指導担当教員の専門性向上と担当となる前にどれだけ専門性を身につけることができるのか。
- ④ 校内支援委員会の質の向上のために必要なもの

今後のテーマ (案)

第2回

通常のクラス内での支援、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校の学びの連続性を考えたとき、特に知的に遅れのない自閉スペクトラム症の子供への指導をどのように保障していくべきか。

第3回

特定の分野に特異な才能のある児童生徒の指導支援について

視覚障害教育部会の設置について

(目的)

市立盲学校を中心とした視覚障害教育について、さらに具体的な方向性を考えていくための部会を設置する。

(構成)

眼科医、学識経験者、保護者代表、校長、視覚障害者団体

(時期)

令和5年9月より令和6年3月末までを予定

令和5年度 通級指導担当者研修一覧

自校通級指導担当者を対象とする研修

1. 通級指導初担当者研修会

①	4/24(月)	①通級による指導と自立活動	拠点校・自校 初担当者(1年目)
②	5/9(火)	②教育相談	拠点校 初担当者(1年目)
③	6/20(火)	③発達障害①(LD)	拠点校・自校 初担当者(小・中)(1年目)
④	7/20(木)	④発達障害②(ASD、ADHD)	拠点校・自校 初担当者(1年目)
⑤	9/29(金)	⑤諸検査から指導・支援へ	拠点校・自校 初担当者(1年目)
⑥	11/1(水)	⑥通級指導のまとめ・課題整理	拠点校・自校 初担当者(1年目)

2. 発達障害担当者研修会

①	5/30(火)	指導法・教材研究①計画	拠点校担当者(3年目)
②	9/6(水)	指導法・教材研究②	拠点校担当者(3年目)
③	12/1(金)	指導法・教材研究③まとめ	拠点校担当者(3年目)

3. 言語障害・難聴担当者研修会(④⑤は外部講師による研修)

①	6/13(火)	概論・演習(構音指導について)	拠点校きこえとことばの教室担当者(2年目)
②	9/11(月)	概論・演習(難聴指導について)	拠点校きこえとことばの教室担当者(2年目)
③	11/30(木)	実践・まとめ	拠点校きこえとことばの教室担当者(2年目)
④	7/3(月)	言語障害の理解と指導	拠点校きこえとことばの教室全担当者
⑤	9/7(木)	難聴の理解と指導	拠点校きこえとことばの教室全担当者

4. 情緒障害担当者研修会(④⑤⑥は外部講師による研修)

①	6/15(水)	指導法・事例検討①	拠点校そだちとこころの教室担当者(2年目)
②	9/14(木)	指導法・事例検討②	拠点校そだちとこころの教室担当者(2年目)
③	11/14(火)	指導法・事例検討③まとめ	拠点校そだちとこころの教室担当者(2年目)
④	7/27(木)	情緒障害の理解と指導/事例検討①幼小中	拠点校【神戸生田・垂水・谷上(中のみ)】
⑤	9/27(水)	情緒障害の理解と指導/事例検討②幼小中高	拠点校【本山南・小部・漆川多間(中のみ)・高校通級】
⑥	11/9(木)	情緒障害の理解と指導/事例検討③幼小中	拠点校【竜が台・竹の台】

5. 通級指導担当者充実研修会

①	5/18(木)	発達課題に応じた学習支援①	拠点校担当者(9年目以上)
②	5/29(月)	発達課題に応じた学習支援②	拠点校担当者(9年目以上)

6-1. 通級指導担当者LD研修(読み書き/幼)

①	6/2(金)	概論・研修計画立案	拠点校 幼児担当者(2~8年目)
	6~7月	各自小学校訪問	拠点校 幼児担当者(2~8年目)
②	7/25(火)	読み書きを意識した発達課題について	拠点校 幼児担当者(2~8年目)
③	10/25(水)	幼児期保育のまとめ・交流	拠点校 幼児担当者(2~8年目)

6-2. 通級指導担当者LD研修(読み書き/小中)

①	6/19(月)	アセスメントの理解	拠点校・自校(小・中)担当者(2・3年目)
②	7/24(月)	事例検討①	拠点校・自校(小・中)担当者(2・3年目)
③	9/21(木)	事例検討②	拠点校・自校(小・中)担当者(2・3年目)

6-3. 通級指導担当者LD研修(ICT・合理的配慮)

①	6/12(月)	ICTと合理的配慮①	拠点校・自校(小・中)担当者(2・3年目)
②	9/20(水)	ICTと合理的配慮②	拠点校・自校(小・中)担当者(2・3年目)
③	11/24(金)	まとめ	拠点校・自校(小・中)担当者(2・3年目)

7. 自校通級担当者フォローアップ研修

①	5/18(火)	教育相談	自校 担当者(1~3年目)
②	6/22(木)	校内支援委員会・「支援検討シート」の活用	自校 担当者(2・3年目)
③	9/14(木)	学習面の指導について	自校 担当者(2・3年目)
④	10/19(木)	行動面の指導について	自校 担当者(2・3年目)

8. 特別支援教育相談センター実地研修

①	6/26(月)	ガイダンス	自校 初担当者(1年目)、一般教員
	7~12月	相談センター/小中学校での実地研修	自校 初担当者(1年目)、一般教員
②	1/23(火)	まとめ	自校 初担当者(1年目)、一般教員

※6-2、3はどちらかを選択

自校通級指導教室の設置について

1. 設置の背景

①定数法の一部改正（文部科学省）

「通級指導のための基礎定数（児童生徒13人に教員1人）の新設」 H29.4.1

②神戸市通級指導検討委員会における意見 R1.7.10

「通級指導を必要とする児童生徒の潜在数の把握。」

「拠点校通級指導教室に加え、自校通級指導教室を設置。」

「自校通級指導教室担当教員の専門性の向上を図る体制の構築。」

③新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告 R3.1

「連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備」

2. 整備計画

①基本的な考え方

- ・国の基礎定数配当基準に基づき、対象児童生徒が13人以上いる小中学校の中から学校規模、加配の状況、地域バランス等を考慮して候補校を選定する。

②整備計画

年度	2	3	4	5	6	7	8	計
教室数	5校	10校	10校	15校	15校	20校	20校	95校

* 2年度設置校 魚崎小・湊小・長尾小・霞ヶ丘小・伊川谷小

* 3年度設置校 福池小・成徳小・上筒井小・兵庫大開小・ひよどり台小
藤原台小・蓮池小・北須磨小・下畑台小・井吹東小

* 4年度設置校 渦が森小・御影北小・高羽小・夢野の丘小・鹿の子台小
駒ヶ林小・千鳥が丘小・高津橋小・鈴蘭台中・港島学園

* 5年度設置校 本山第二小・住吉小・福住小・桜の宮小・だいち小・西須磨小
妙法寺小・花谷小・東舞子小・小東山小・有瀬小・井吹の丘小
魚崎中・本山中・多聞東中

3. 人材育成

①神戸市教員育成指標に則った職務研修

- ・初担当者研修
- ・2年目、3年目の担当者へのフォローアップ研修
- ・経験の長い担当教員は講師役としてアウトプット型の研修

②その他の研修の機会

- ・拠点校通級指導教室担当教員によるサポート
- ・特別支援教育相談センター実地研修への参加
- ・大学のコーディネーター養成講座への教員派遣

令和 5 年 6 月 1 日
神戸市就学・教育支援委員会

特別支援教育相談センターの状況

1 就学相談

(1) 5 歳児の就学相談

① 就学説明会

今年度は、4 月 18 日より就学説明の動画を Web 配信した。同日に神戸市総合教育センターにて、Web 配信を見ることができない方のために Web 配信と同様の動画を見ていただく場を設け 5 名の参加者があった。

② 個別の就学相談

今年度は、個別の就学相談の申込を 4 月 18 日より開始しており、260 件（5 月 16 日時点）の申し込みがある。

◆療育センター会場の申し込み件数 (人)

	まるやま学園	のぼら学園	ひまわり学園	合計
令和 5 年度	25	31	14	70
令和 4 年度	30	23	9	62

◆6 会場の申し込み状況 (人)

	KEC	北区文化 C	有野小	糀台小	東灘区文化 C	北須磨文化 C	合計
令和 5 年度	70	14	5	21	53	27	190
令和 4 年度	61	17 (しあわせの村)	9	26	31	11 (竜が台小)	155

※令和 5 年度は 5 月 16 日時点、令和 4 年度は 5 月 11 日時点での状況

◆昨年度（令和 4 年度）の個別の就学相談の実績

	個別の就学相談 総数 358			
進学先	通常	特支級	特支校	市外
人数	166	146	42	4

(2) 学びの場の変更

就学後においても子供の育ちを見通しながら柔軟に学びの場を見直す必要があり、学校園からの特別支援学級への入級や特別支援学校への転学等についての相談に対し、助言を行う。今年度より、小学校から特別支援学校へ学びの場の変更を検討している児童の状況を把握するため、保護者より学校に相談があった場合に相談センターに学校から一報を入れるよう協力依頼を行っている。

2 教育相談

令和 4 年度実績（令和 3 年度実績）

○学校・保護者相談電話 2878 件（1768 件）

○教育相談受付 686 件（469 件） ○学校訪問件数 850 件（772 件）

○検査面談件数 324 件（360 件） ○医療教育相談実施件数 118 件（155 件）

※令和 3 年度は、新センター立ち上げ準備のため 12 月末までで新規申込をストップした